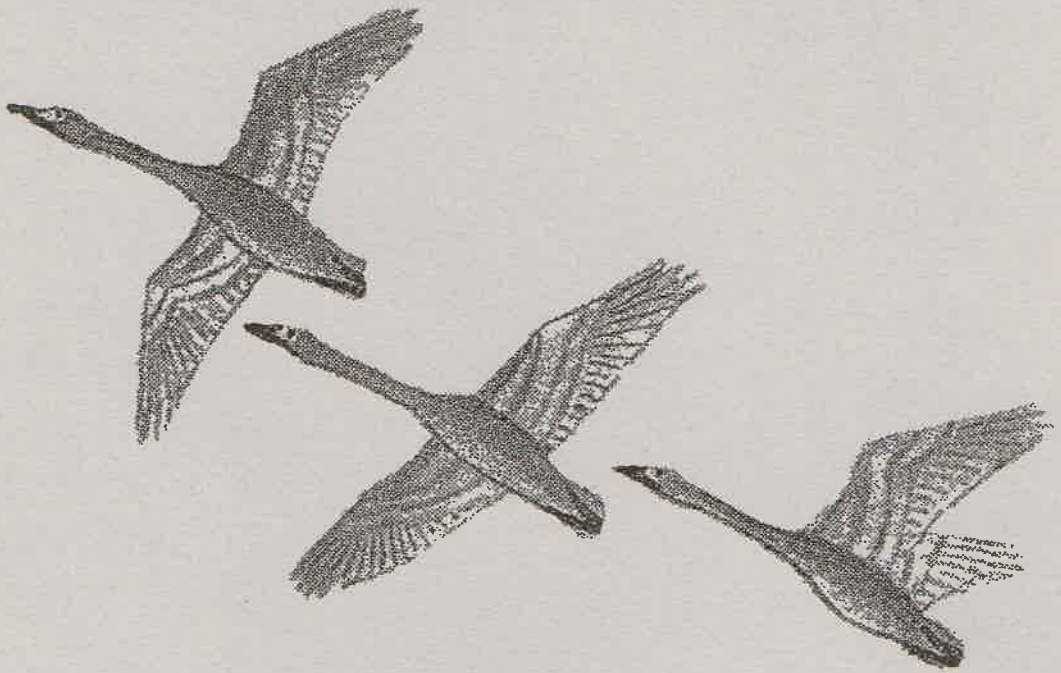


# エゾマツ



No.55

2001. 1. 15

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 目 次

1. 巻頭言 2001年の初春を迎えて ..... 会長 川端 功治 ..... (1)
2. 10月以降の活動 ..... (3)
3. 会員の声 ..... (4)
4. 本の紹介 ..... (7)
5. わが思い出の山行 ..... 小泉 三雄 ..... (9)
6. トガリネズミの話 ..... 川端 功治 ..... (12)
7. キーワード ..... (15)
8. 藤田正次さんの想いで ..... (17)
9. 観察会研修会情報 ..... (19)
10. 編集後記 ..... (20)

[巻頭言]

## 2001年の初春を迎えて

会 長 川 端 功 治

会友の皆様方にはご家族お揃いで、輝かしい新年を迎えられ、誠に慶賀至極と拝察しております。

私も世間並みに年頭を祝い、我が協議会のあり方について思いを巡らし、反省と進むべき道を模索すると言う殊勝？なお正月を迎えました。私達の仕事で大切な観察会のあり方は大自然の仕組みを理解し、それを構成している仲間達の暮らし振りを調べ人間との共存、共栄の道を探るのが目的であって、単なる興味本位の名前調べに陥らないようにと、心に誓いました。

その基盤に立って観察会参加者との対話を進めると新たな道が見えて来ますので、私達の調べた事を伝えて理解を求めることは当然としても、参加者の体験談や感想意見をたっぷりと聞き取る事も大切な仕事と言うことになりましょう。

この対等の関係から生み出された対話は貴重であり、その内容が難解でその日に納得が出来るような結びが出来ず、検討を約して後日に先送りしても、その日に得られた親愛感は大切にしたいとおもいます。

そこで留意したいのは私達の自然解説とプロのそれとは自ら相違があるのは、目的意識の基盤が相異なるので、比較し優劣を論ずるのは無意味で、むしろ両者の協調こそが、望ましい社会奉仕のボランティア活動である好例を掲げます。

道社協の「有珠山福祉救援ボランティア活動対策本部」の報告を新聞に報道されましたが延べ9000人に上った全国からのボランティアの参集は、罹災者の胸を打ち、感謝感激の涙が溢れたと報道されています。

なかでも注目されたのは、集まったボランティアに皆さん方は何をして欲しいか罹災者に聞いたところ、意外にも「子供やお年寄りの話相手になってください」と言う要望が、最も多かったそうです。

噴火と言う大自然の怒りの衝撃に、恐れ戦く生活弱者の受けた心の痛手は深く沈潜し、もはや肉親ではオロオロするばかりの姿が目に見えます。

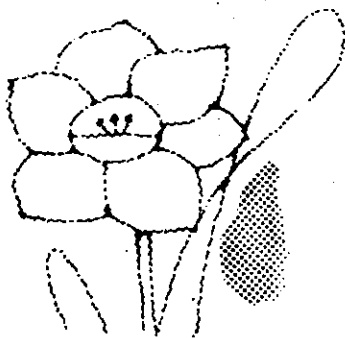
優しい人の声が欲しい。いたわりの言葉が欲しい。一緒に笑ってみたい。思いっきり泣いてみたいけれども、ただ呆然自失の虚ろな表情が想像されます。

ボランティアの皆さんは、それぞれ手分けして話し相手になり、おどぎ話や在れ来りの世間話に花をさかせました。話は拙くても一日でも早く立ち直って欲しいと願うその真心が通ずるようになり、笑みが溢れ出して、ついに避難所一杯に元気が回復したそうです。

この災害で特に目立ったのはプロの無償奉仕と言われています。理髪美容、マッサージ、物資運搬、等目ざましいものがあり、特に全国から参集したボランティアの為に宿舎給食の提供、帰郷航空券寄贈等大いに感謝されました。このように多種多様なボランティア活動が広がりを見せつつあります。

我が会も理想を高々と掲げ、着々と成果を上げてまいりましたが、時にはその歩みに過誤は無かったか、自画自賛の誹りを受けて居ないか等反省を繰り返しつつ歩みつづけて来た道のりでした。

これからも会員一同、心をつつにして研鑽を積み、自然と人間の架け橋になる好ましい歩みを続けてゆきたいと思えます。

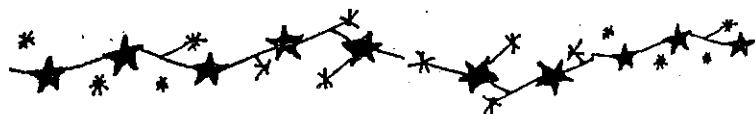


## 2001年、今年も自然をしっかりと見つめていきましょう。

21世紀が始まりました。凜とした寒さの中に立つ樹木の美しさは雪国に住む人々にしか体感できません。寒さはこれからが本番です。しかし、冬の寒さも少しずつ変化しています。気象の統計によると、札幌の年平均気温がこの百年で、2.3度、1月だけでは3.1度上昇しているといえます。

気象ばかりではありません。動植物にもさまざまな変化が見られます。例えば野鳥のムクドリは冬には南に渡る鳥ですが、今では日常的に街中で数百、多いときには数千の群れを作り越冬しています。

自然の変化の原因を見極めたり、人々にとってそれがどのような影響を与えているのか考察する姿勢を持つことは、21世紀の本会に必要なことではないでしょうか。新しい世紀に対応した本会のありかたを会員の皆様の知恵で考え、自然と対峙していきましょう。



### 10月以降の活動

- |           |   |
|-----------|---|
| 10月15日(日) | ・秋の森の観察会 10:00~14:30<br>野幌森林公園大沢口集合(下見 10月14日)  |
| 11月12日(日) | ・ありがとう観察会 10:00~14:30<br>野幌森林公園大沢口集合(下見 11月11日) |
| 12月7日(木)  | ・12月の森の観察会(協力) 10:00~12:00<br>開拓記念館前(下見 11月30日) |

# 会員の声

伊達市 木村 益巳

伊達市で自然観察会を主催して4年目になります。名はネイチャーウォッチングクラブ。自然に親しむ、自然に学ぶ、自然を守ろう、という会です。会員は約70名。行事は、花、紅葉、キノコ、野鳥、蝶などの昆虫、湿原などを見に行っています。市内 北黄金貝塚へ縄文の森づくりの植樹にも参加しています。会報は年約10回、カラーで発行しています。策定中の市 長期総合計画（10年間）へ、『自然を豊かにする』提案を準備しているところです。

## 『増し毛の山の紹介』

増毛町 谷 志朗

町民からおらが街のシンボルとして親しまれている暑寒別岳には、シーズンを通して、各地から多くの登山者が訪れ、賑わいを見せます。登山ルートは、2コースありますが花や紅葉を観るなら箸別ルートが最適です。7月上旬になるとイワイチョウ、ショウジョウバカマ、ハクサンチドリ等の花々が咲き始め、雨竜湿原を眼下に眺め、谷間から吹き上げる風が疲れを癒してくれます。是非一度、暑寒別岳の素晴らしさを味わってほしいと思います。



新得町 加藤 幸夫

平成8年に空知支庁 月形町会場の研修会を機に当ボランティアレンジャー協議会に入会后4年が経過、その後は十勝支庁主催の会員研修にも参加し、また、環境庁はじめとする公的機関の公開講座並びに管内にある大学の自然にかかる講座には積極参加しており、次に毎年地元町の自然探索の機会には孫たちと一緒に極力参加しております。最近は日ごろからマスコミ等の広告には自然界の動、植物の情報を把握するために、注意深く目をとおしている昨今です。

札幌市 豊平区 小林 節子

木を知って、草花を覚えて、歩くことが楽しくなりました。今まで、何の気なしに通っていた路、家々の庭も、まだまだ知らない花がいっぱいです。どこの街に行っても、街路樹が気になったりもします。でも、覚えたつもりが忘れていたり、春になって緑が芽生えたらまた、楽しく一からやり直さなくてはならないでしょう。

前日、雪の札幌から故郷の横浜に行けばうそのような暖かさ、山茶花が咲き、みかんが家の軒に鈴なりでした。春遠からじですね。

札幌市 厚別区 佐々木 幸夫

早いもので、会員になってもう12年になりますが、名簿によりますと140名を越す同志がいますので、私個人としてもっと機会を作って、同志と交流を図り、情報交換をして自然の橋渡し役の充実に努めたいと思っています。

さて、今日まで道産子として少なからず誇りをもって生きてきましたが、近年の『試される大地』に少なからず嫌悪感をもっています。同志諸氏はどのように判断していますか…。それにしても、健康第一です。お互い留意して、ボランティア活動の継続に努めたいものです。

## 野鳥公園のシルバーガイド

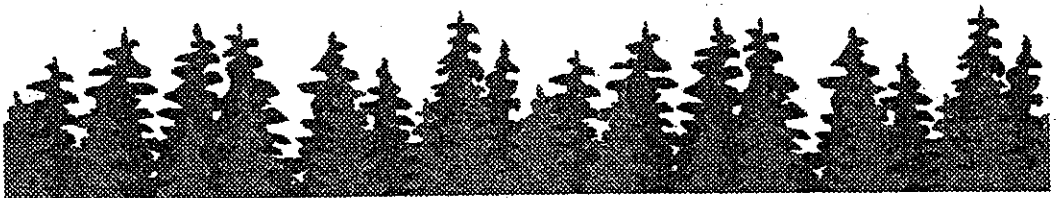
東京都品川区 岡村 敏夫

平成11年のボラレン育成研修会を受講して協議会に入会、観察会の下見・本番にも参加して、さあこれからという平成12年4月、転勤のため東京に引っ越しました。こちらに来てからも探鳥を目的に近郊の海辺や野山を歩き回っています。北海道では見ることができないオナガやサンコウチョウ、エナガを見つけた日の夕飯にはビールで乾杯でした。よく出かける東京港野鳥公園の水辺の鳥は通年、野山の鳥も大都会の真ん中には、そこそこ見ることができます。公園には本職のレンジャーの外にボランティアのシルバー(年配の意味)ガイドがいて、鳥の渡りの情報や目の前の水鳥を解説してくれます。当番の曜日が決まっているらしく顔なじみのガイドの方も増えてきました。解説してもらって側立ってみて、「かくありたしのボラレン像」が何となく見えてきたような気がします。

札幌市 南区 今村 ひろこ

自然、ナチュラルと当然のように、使われる言葉となった昨今ですが、はたしてどれだけの人が理解されているもののでしょうか？

わたしは、植物の不思議を知るほど、教えられ、助けられて、いる深さを感じます。だから、2001年も、同じ世代に生きるものとして伝え、まだまだ教わりたい、そして細い根でありたい。







坂本 与市 著

北の昆虫 不思議・愛

北海道新聞社 2000. 11. 15 新

定 価 1300円+税

昨年の秋のことでした。高校時代のクラス会が行われました。全国に散った仲間、久し振りに会うことができました。頭髪のすっかり薄くなった男の面々、すっかりおばさんになった女性たちと大いに語り合いました。

クラス会后、親しかった男友達と連れ立って二次会に繰り出しました。酒を呑みながらの野郎同志の気安さからか、話題は女性の美しさになりました。(決して、セクハラ的な下品な内容ではなく、女性称賛の哲学的な話でありました。)

四国の松山に居を構えている彼が、若き高校時代の同級の女生徒の淡き恋心を切々と語り、四国生まれの自分の妻とを比べ、北海道と本州の比較女性論を披瀝したのでした。

大阪の高校で生物の教鞭をとり、昨年退職した大阪住まいの元高校教師は、したり顔で、北海道と本州の女性比較を生物学的に解説を加えたのでした。彼の言わんとするところは「北海道の女性は、体格的・体形的にすぐれ大変美しい。それは北国に棲む動物(勿論人間も含む)にあてはまる法則があって、客観的な事であり、北海道に住む女性がすぐれているのは紛れもない事実である。」酒の酔いで北海道の女性称賛がどんどん盛り上がったのでした。

「北国の昆虫 不思議・愛」を読んでいる、二次会の話題を思い出したのは、本書の「自然界の法則」の項に、ベルクマンの法則が述べられていたからでした。

その一部を引用すると、「同じ『種』の個体間で体の大きさを決定するのは、気温の条件であると言う。つまり、同じ分類に属するものならば、『暑い所に住む個体ほど体が小さく、寒い所に住む個体ほど体が大きい』という法則である。」とあり、それに続いて「…身体の容積は、体長の三乗に比例して増大するが、身体の表面積は体長の二乗に比例する。したがって、身長が大きいほど表面積は小

さくなり体温を保持し易いからである。だから、寒い地方の生き物は、身長を大きくした方が有利、暑い所では身体を小さくして、熱を体外に放出した方が有利になるわけだ。」と述べられています。

「北国の昆虫 不思議・愛」の表題につられ手に入れたこの本は、札幌テレビ放送（STV）のラジオ番組「オハヨー！ほっかいどう」の火曜日のジャーナル談話室での語りを基に「北海道昆虫学緒論」のつもりで活字にしたと、著者は述べています。

内容は昆虫のテーマばかりでなく、多岐にわたっていて、興味あふれる項目が羅列されていて、あっと言うまに読み切ってしまう。気軽に読み下せるのは一項目読み切り方式なのかも知れません。

大項目「生き物再生産」の書き出しに「生物が生きていくと言うことは、代謝・生長・生殖を行うことであるが、何と言っても最大の特徴は、自己の再生産、つまり、子孫をつくり育てることである。」に始まり、興味ある昆虫たちの生殖例が語られていますが、つまるところ、生物は「種」の維持と「進化」に収束することがよく分かります。

一項目読み切り方式の合間にコーヒープレイク風な部分もあり、これも含蓄ある話題が述べられています。その中の一つ、

身土不二 「人間は必ず死ぬ。地上の動物も植物も生まれては死ぬ、その繰り返してある。すべてのものは土から生まれ土に戻るのだ。私たちのいのちの糧はすべて大地から生まれ、身と土とは別のものではなく身土不二ならずである。大地を健康にすることは人類健康の土台である。」

なるほど、その通り、納得、納得！

## わが思い出の山行

### 五色原……エゾノハクサンイチゲの大群落

白雲小屋付近……ヒグマ、食料用テント襲う騒動

札幌市東区 小泉 三雄

道新スポーツに百回、2年間に及ぶ企画連載「北海道百名山」は、利尻山からスタートを切ったことが分かり、私の登山の始まりと深田久弥著「日本百名山」に登場する最初の山でもある。一冊の本に結実されたのを読み山への思いで血が騒ぐ……地形図に記載されているだけで1281座もある、この数多い山の中から百名の選考は①標高500m以上②歴史的由緒③山格、特色④地域とのかかわり⑤難易度～などを選択基準としている。

私は40座踏破していたので、執筆者と同じ場所に立ったつもりで読んでみた、山への思いは人それぞれ、人生と同じだ山は自分の足で登るしかない、頂上というはっきりした目標がある。私もそのひとりかと過去の山行記録を捲ってみた。

大雪山国立公園のほぼ中央部に広がる高層湿原で、表大雪、東大雪、トムラウシ山等を見渡せる、沼ノ原コースを見つけた、もう一度訪ねてみたい。

- 1、山名コース ニシキ沢～沼ノ原～五色岳～忠別岳～旭岳
- 2、山行日 1987年(昭和62年)8月13日～16日 (3泊4日)
- 3、山行目的 夏山合宿(安全登山の確認)
- 4、メンバー L小泉三雄 S、L清野裕子 装備 谷津有香 記録 小西素人
- 5、ミーティングと準備 7月21、28日 8月10日 3回
- 6、食料計画 8月14日 朝各自 昼行動食 夜スバゲッティ、海草サラダ、スープ  
15日 朝雑炊 昼行動食 夜釜飯、味噌汁  
16日 朝ラーメンライス 昼行動食
- 7、届出 北海道警察本部外勤課 上川町 大雪営林署
- 8、その他 ・共同、個人装備 ・概念図等省略

#### 8月13日

札幌発17時10分網走行き特急オホーツクに乗る、お盆であり混雑、車内で計画書をもとに最後のミーティング、上川駅で下車。すぐに、朝出のタクシー予約と夕食の買物をする。駅前にテント22時就寝

#### 8月14日 雨、時々はれ

4時起床、朝方から雨がどしゃ降りテントの下水浸し、駅で朝食。5時大雨の中タクシーで層雲峡を通過して帯広方面え向かう、大雪湖畔の中ごろから石狩川に沿って林道に入る。高原温泉との分岐にゲートがある、事前に入林許可書を受け施錠されている鍵番号を確

認しておいた。6時登山口着（タクシー料金5520円）雨具必要なし登山口に車が3台駐車、登山口でのキャンプは禁止されているので、車中で仮眠したのか。

6時20分登山口発、クチャンベツ川とニシキ沢に挟まれた道最初の徒渉は水量が多く上流の方の流木を渡る、二つ目の徒渉は置き石の上をポンポンと渡り尾根に取り付く、針広混交林の中に入るや雨が強くなり雨具をつける、森林帯の道に沼ノ原まであと2kmの指導標、かなりきつい登りを登りつめると、部分的に足場の悪い湿地に出る時には足首までぬかる、視界がひらけ劇的に沼ノ原に出る0、8kmの指導標と同時に木道、快適疲れが吹っ飛んだ。8時20分沼ノ原分岐着、左へは石狩岳方面の道を分ける、右へ大きくUターンするように北に向う高層湿原に小さな沼群にミツガシワ、周りは風雪に耐えたアカエゾマツ、沼ノ原中心部の大沼ほとりキャンプ指定地だが水は汚れている、休憩しながら写真撮影。（82年昭和57年秋には決まった歩道がなく、水カ等の植物上に踏み跡が通る所に交差し、非常に荒れていた。今回は木道が設置（85年昭和60年）されてお自然が壊れてきた大変うれしかった）湿原散策の楽しみナガバモウセンゴケ、ツルコケモモ等に出会い4人で感激。木道が大沼の出口まで続いている、木道が切れアカエゾマツの林、また、足場が悪くなり歩きづらい、ゆるく下がる急斜面の下に五色の水場で兵庫県尼崎市勤労者山岳会のパーティー（6女2）と会話、女性が眉間虫に刺され目が一文字に腫れている、大雪山の蚊〜ヌカカ（蠟）ヒグマと別な意味で恐ろしい存在、我々と同じコースの縦走だ。

急斜面に大きなジグザグを切って登る、展望も開け天気も良くなった時々ある小沢の清流、随所に小規模なお花畑ダケカンバ帯を抜けると五色ガ原、振り返れば沼ノ原の背後に石狩連峰、行く手正面に五色岳、左に雲の切れ間から秀峰トムラウシ山の眺め、広大なお花畑、エゾコザクラ、エゾノツガザクラ、アオツガザクラ、チシマノキンバイソウの黄色ヨツバシオガマの薄紅色の花と葉の美しさ、エゾノハクサンイチゲ白くて大きな花の大群落、あまりに数が多いので口の悪い人はタクサンイチゲ等と呼ぶ、花期はおわりに近いが一面に咲く花々この世の楽園に驚嘆。

五色岳山頂で雨足が強くなった、お花畑通過の時は天の神がはれを与えてくれたのだ。山頂から北にハイマツのトンネルを下り忠別岳非難小屋へ向かう、大きな雷が一発腰から下はずぶ濡れ、小屋前の大雪溪を踏みしめ14時35分着、小屋は本州の女性ばかり靴下を絞りホエーブスで乾かす、気温12℃あるが初冬のように寒いなかなか温まらず紅茶で乾杯、あとから3パーティが小屋に入ってきた。若い小西さんがポリタンクに何度も水を運び夕食の準備、食後腰から下濡れてるがしかたなくシラフに入る19時就寝。

#### 8月15日 小雨後はれ

5時起床、ズボンが乾いているが靴も靴下も濡れてる外は小雨憂うつだ6時40分小屋発小屋から分岐まで進む、忠別岳南の急斜面で標高差250mはつらい、ハイマツ帯を過ぎると開けてお花畑が表れ忠別岳山頂8時5分着、山頂の西側は150mにもおよぶ岩壁が忠別川へと切れ落ちている、高感度あふれる展望、山を征服した気分やめられない。

断崖の縁に沿ってなだらかな下り忠別沼8時45分着、やがて平ガ岳東眼下に高原沼、空沼などの湖沼群を見下ろしながら長大な崖縁にそつてすすむ、やがて高根ガ原分岐クマ

注意の看板は不気味だが「高山植物の女王」という誇り高い称号を与えられたコマクサに見とれるばかり、1880m台地はスレート平と呼ばれ板状石のあるところ所々にそれをケルンにしてある。

ヤンベタツ川源頭に沿って斜度を増していくと前方の台地に白雲岳非難小屋12時20分着、キャンプ地に大きくがっしりしたテントが目立った、「8月11日午後11時頃ヒグマに食料用テント襲われてた」その注意書きの看板がある。当日はテントが20張り立ち並んでいた、TBSテレビ取材班の案内役の食料用テントだけ襲われた人慣れしたクマでないかとの話だ。まず小屋の使用料一人500円管理人に支払う、下は寒いので上の方が良いと言われた、とても混雑している、階段の上り下りに不便だが隅にし敷物を置く。

ゆっくり夕食の準備をしながら襲われたテントを見にいった、クーラーに爪跡が無残にある、北大クマ研などの調査によると白雲岳から高根ガ原、高原沼にかけて確認されたクマの個体数は4家族9頭、一帯がこれら行動範囲のため昭和56年から3年間高原温泉付近の沼めぐりコースが閉鎖され再開後も営林署などが警戒を続けているのだ。

山岳写真家の市根井孝悦さんも隣で夕食の準備してる。食前酒だ、分け合って軽くビールで乾杯いつも山女にはかなわない。19時就寝

### 8月16日 はれ

3時30分起床、早朝の行動は危険なので避けた方がよいと、TBSテレビ取材班案内役の写真家小田嶋さん(女)にいわれる。明るくなったので4時45分小屋発、石室前でヒグマ調査の人が双眼鏡でヤンベタツ川源頭を見ている。いきなりきつい登りで白雲岳分岐をめざす、東側に烏帽子岳を眺めながら赤岳沢源頭の大雪渓をトラバースし北海岳へ6時5分着、山岳展望によい所御鉢平を囲む山の一望、詩人大町桂月の「富士山に登って山岳の高さを語れ。大雪山に登って山岳の大きさを語れ」の紀行文がよく似合う。

ここから植物類も少ない、松田岳と荒井岳のゆるい起伏を越え間宮岳分岐で7時着、中岳、北鎮岳への道を右に分ける、間宮岳から後旭岳、熊ガ岳に囲まれたキャンプ指定地にテントが見えるし旭岳東斜面の長大雪渓でスキーを楽しんでいる。それを見ながらがれ場、最大で最後の登りを一步一步挑戦だ斜度が30度近くあるとか、とても辛いが北海道の最高峰旭岳山頂だ。8時10分着。

トムラウシ、夕張岳、芦別岳、十勝岳、羊蹄山等道内の主な山々が一望……素晴らしいの一言記念写真。旭岳8時40分発、下りは疲れた体には応えるし事故が起きやすいので慎重に行動するよう指示。金庫岩下から地獄谷への落ち込みを右手に高度を下げる、眼下に姿見ノ池の水の青さと谷からの噴気、家族ずれが大勢軽装で登ってくる、登り優先に気を使う大雪銀座。ロープウェイ姿見駅9時45分着。

ロープウェイ1100円、荷物(10kg~20kg繻)230円。

ロープウェイと売店で2000円支出すると旭川迄の無料バス乗車券(1050円)11時発旭川行きへ。

(2000年(平成12年)12月12日記)



# トガリネズミの話

札幌市西区 川端 功治

夏の観察会で森の中を行列しながら、あれこれと話に花が咲いて居るとき先頭のグループで、特に女性陣から、キャー等の声が聞こえ、ネズミが死んでいる！とくれば、まずはトガリネズミとおもえば間違いはありません。

最近トガリネズミの種類まで指摘する参加者もいるレベルですから、次に資料を纏めてみましたので参考にしてみてください。

まず齧歯（ゲッシ）目ネズミ科のハツカネズミ、ドブネズミ、クマネズミ等は人家に侵入して台所や物置の食品や衣服等を食い荒らすので、憎しみをこめ箒や物差しを振りまわして追いかけたり、反対にキャーと逃げ回ったり、庭木や林木の樹皮を齧りまくって枯らし、殺鼠剤やトラップのお世話になるエゾヤチネズミエゾアカネズミと、食虫目トガリネズミ科の仲間とが混同されてはトガリネズミにとって甚だ迷惑な話でありましょう。

トガリネズミは、土中に住んでいるから、畑に出没して農家を困らすモグラの同類とも誤解されますがモグラはモグラ科であり、北海道にはモグラは住んで居りません。

北海道に棲息するトガリネズミはオオアシトガリネズミ、エゾトガリネズミ、カラフトヒメトガリネズミ、トウキョウトガリネズミの4種とされています。野幌森林公園ではオオアシトガリネズミ（前足が後足より大型で鼻先が尖るネズミの意）がみられ最も深く潜り、ネズミを好み他種よりもミミズの捕捉率が高いとされています。同公園では他にエゾトガリネズミがみられ、前者より小型で、前足が特に大きいことは無く、区別し易い。

カラフトヒメトガリネズミは道東でみられ更に小振りとされていますし他にトウキョウトガリネズミは道東に極く稀に発見され超小型で有名ではありますが、この和名は旧幕府時代に蝦夷地（北海道）で捕獲されました。超小型に相応しい和名の命名を受けるべく、ヨーロッパの鑑定機関に、蝦夷地産として送ったがエゾの地名知識が無く、エゾはエドの誤記だろうと曲解され、エドトガリネズミと命

名されて仕舞いました。もっともその頃、江戸の犬川縁で超小型のトガリ鼠が発見されたとの風評が影響したのかも知れません。（後年誤報と判明し訂正されました）その上、江戸が東京と改称されたから自動的にエドトガリネズミがトウキョウトガリネズミに改称されたと言うのが真相のようです。

世界的に高名な大都市東京とは縁もゆかりも無いトウキョウ名の肩書を付けられたトガリ君がナント世界一小さい哺乳動物と判明、極めて希少価値が高いとされているのには驚きです。このトガリ君は道東、特に知床付近に時々発見され道央では胆振地方に一件発見されただけのようなようです。

トガリネズミ類は、天敵を恐れて地中で暮らして専らミミズや昆虫を捕食していますが、寿命が尽きると地上に出て死にます。鼠が大好物のキタキツネでもトガリネズミの匂いを嫌って寄り付きませんので時おり路上に死体を見かけるわけですが、放置された死骸は何時の間にか姿を消して仕舞うところを見ると食肉の鳥類や小動物が、清掃係の努めを果たしているものと思います。

トガリネズミの仲間達の平均寿命は1年8ヶ月。老化と共に採餌能力が減退して半日採餌出来ないと死亡してしまいます。高温体質なのでミミズを必要とし、それも不可能なら、太陽熱に救いを求めて、天敵の多い地表と知りながら這い出るのは最後の足掻きであり、覚悟した自殺的行動と言えましょう。

それで参加者に語りかけてみました。人間と同じ哺乳動物が自ら選んだ死の末路。見方を変えれば自ら選んだ壮絶な尊厳死とも言えましょう。それなら気味が悪いとして、足蹴にしないでせめて道脇に置き換えて、静かに立ち去ろうではありませんか、と提言したところ、中年の婦人が進み出てフキの葉に死体をくるみ道脇に寄せて静かに手を合わせました。

この仕草を静かに見守っていた参加者の皆さん方の胸に、どんなことが去来したのだろうか、それは沈黙のひとときでした。

\*北大刊行会発行

哺乳類食虫目 トガリネズミ科

知床動物記より抜粋

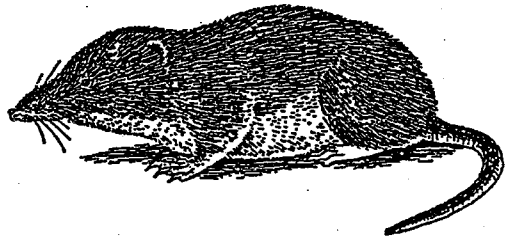
検索表(道産種のみ)

### おおあしとがりねずみ

*Sorex unguiculatus* DOBSON

重量 15 ± 2g

頭胴長 58 - 81 mm



(エソトガリネズミ)

エゾ種はホンシュウ種に酷似する

ので同種イラストを転写

### ほんしゅうとがりねずみ

*Sorex shinto shinto* THOMAS

重量 9 ± 2g

頭胴長 54 - 67 mm



### からふとひめとがりねずみ

*Sorex minutus gracillimus* THOMAS

重量 4 - 5g

頭胴長 50 ± mm

(尾が長い)



### とうきょうとがりねずみ

*Sorex minutissimus hawkeri* THOMAS

重量 2 ± 2g

頭胴長 40 ± mm



\* 1円貨 = 1g

100円貨 = 5g

イラストは新日本動物図鑑より



# キーワード



## ドカ雪

昨年(2014年)の11月28日に石狩地方を中心にドカ雪が降り11月として、47年ぶりに記録を更新しました。その後も各地でドカ雪が降り、今シーズンの雪の多さを予感させます。ドカ雪が降ると、まず交通障害が起き、列車が不通となったり、路上は除雪が追いつかず交通渋滞に見舞われ、人や物資の移動が止まり社会生活に混乱をきたします。

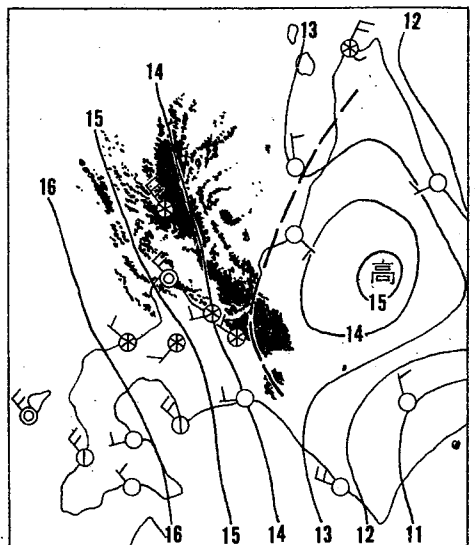
ドカ雪(大雪)は、どれだけの雪が降ったときに言うのでしょうか。その目安は気象台の発表する大雪警報や注意報が基準になります。その基準は気象官署ごとにその数字は異なります。例えば、札幌管区気象台では、12時間の降雪の差(もしくは12時間の積雪の差)が40cm(山間部は60cm)に達する見込みになった時に大雪警報をだします。注意報は20cmの時です。

この数字がほぼ全道的な平均値で、比較的雪の少ない日高管内、釧路管内など山間部を除いて警報は30cm、注意報は15cmを超すと発令されます。

このようなドカ雪が降るメカニズムについて調べてみましょう。

西高東低の冬型の気圧配置が強まると雪が降りやすくなります。気圧の高いシベリア方面から北西の寒気が気圧の低い日本に向かって流れこみます。その時、寒気と海水との温度差が10度以上もあるため水蒸気が大量に発生します。そして、いくつもの筋状の雪雲に成長して、道内に一気に押し寄せます。この筋状の雲が雪を降らす張本人なのです。

ドカ雪は冬型の気圧配置が強まり、水分を多量に含んだ筋状の雲がいくつも合体しながら発達して、日本海側に上陸して山々にぶつ



石狩湾小低気圧のレーダーエコー合成図  
——等圧線(14:1014hPa) ---風の収束線

かると発生するのです。

石狩地方を中心にドカ雪を降らせるものに、石狩湾小低気圧と呼ばれるものがあります。これは、石狩平野でごく狭い範囲にドカ雪を降らせます。このような時注意深く天気図を見ると、たいてい弱い小さな低気圧が石狩湾にできています。

石狩地方のドカ雪は石狩湾小低気圧のできたときだけ降るとは限りません。発生した低気圧が北海道付近を通るときには、全道的に暴風雪になり多量の雪が降る事もあります。

## 道内降雪データ

日降雪量（委託観測した記録） 鹿部町 160cm（1963.2.12）

日降雪量（道内22ヵ所の気象官署記録） 帯広市 102cm（1970.3.16）

年降雪量 後志管内倶知安町 2019cm（1970年）

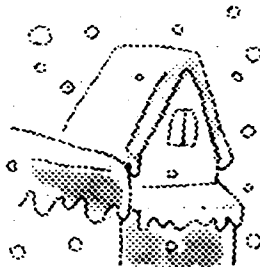
最深積雪量 上川管内中川町 396cm（1957.2.26）

〔注〕

日降雪量…前日午後9時から当日午後9時までの24時間に観測した降雪量

年降雪量…ひと冬に降った降雪量の合計

最深積雪…ひと冬のうち、最も多く積もっていた日の雪の量



## お悔み申し上げます 藤田正次氏ご逝去

元会員 藤田正次氏がご逝去されましたのでお知らせ申し上げます。

藤田氏は平成11年度まで広報部担当の役員として、本会の発展に多大な貢献をされました。また、蝶に関する知識は私達の会員のなかで右に出る者はなく、興味ある蝶の情報を私達に提供していただきました。

平成9年の定期総会に先立って行われた研修会では、ご自分で撮影されたスライドを使って、蝶の生態を判りやすく参加者にお話下さいました。その直後、体調を崩され、本会に迷惑をかけてはと一時退会されておりました。

生前、多忙な薬剤師のお仕事のかたわら、本会の活動に積極的にかかわっていただきましたことにお礼申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

## 藤田正次さんの想いで

前広報部長 田村 允 郁

昨年11月下旬、藤田さんのご実家から正次さんが亡くなった旨のご連絡を受けました。病院を退院して弘前の実家でゆっくり静養するとの手紙をいただいたのが一年前でした。

元気な笑顔で札幌に戻り、本会に復帰するものと思っていた矢先でした。藤田さんのやさしい話し声がいまでも私の耳に残っています。

藤田さんとのかかわりは、平成3年、道民の森（当別町）で行われたボラレン育成研修会でした。修了後、お互い会員となり、役員を引き受け広報部を担当しました。広報誌「エゾマツ」の編集・発送の仕事を変則な勤務時間の合間を縫って参加していただいたり、原稿の集まらぬとき、無理を言って藤田さんに頼んだのでした。

こころよく引き受けてくれた原稿は、表題「蝶に逢いたくて」シリーズとしてパートⅠは広報誌No.32号、パートⅡは36号、パートⅢは40号に掲載させていただきました。藤田さんはネット（捕虫網）は決して振り回しません。カメラのレン

ズを通して蝶との出会いをされていました。このことから藤田さんの優しい心がうかがえます

広報誌32号でアポイ岳のヒメチャマダラセセリとの出会いを次のように書き残されています。「…レンズを通して見た彼は、とにかくかわいかった。地味な茶色の色合い何とも言えずきれいだし、毛むくじゃらの体もいい。それに、何といったって私ごのみのつぶらな黒い瞳なのである。これがなんたってたまらなく可愛い。みなさんにも是非見せてあげたいものです。…」藤田さんの蝶に対するやさしさがあふれています。

このようにカメラを通した蝶との出会いを整理され、隔年ごとに写真の個展をされていました。私は藤田さんに「次回の写真展はいつなの？」とよく聞いたものでした。すると「夏・冬のオリンピックの開催年にあわせて計画しているよ」との答が返ってきたのでした。

平成9年4月の定期総会の研修会では、撮影されたスライドを使って、蝶の生態や知られざるエピソードを語っていただきました。やさしい語りでほんとうに楽しいひとときでした。

私事を語ると、この定期総会後の懇親会が終わって、なんとはなく誘い合ってススキノへ出ました。藤田さん行きつけの店に入ると、壁に大きな美しい蝶の写真が何枚も飾られているではありませんか。藤田さんと店のママ、私と尽きぬ蝶の話をしたのが、つい昨日のように感じられます。

藤田さんは今、天国の美しい花園を飛びかう蝶と楽しい語らいをされていることでしょう。

ボランティア・レンジャー協議会の活動（広報活動）に忙しい合間を縫って参加された藤田さん、本当にありがとうございます。ご冥福をお祈りします。

# 観察会研修会 情報

## 《平成12年度(1月~3月)開催・協力予定の自然観察会》

### ◎1月の森の観察会

1月18日(木) 10:00~12:00

集合場所 北海道開拓記念館前 (下見 1月11日)

### ◎冬の森の観察会

2月25日(日) 10:00~14:30

集合場所 野幌森林公園大沢口 昼食用意 (下見 2月24日)

### ◎野幌の冬の森観察会

3月25日(日) 10:00~12:00

集合場所 北海道開拓記念館前 (下見 3月24日)

## その他の団体の観察会・フォーラム

### ◎1月28日(日) 冬芽の樹とツル性の木観察会 西岡公園

問い合わせ 自然体験塾 (TEL 011-682-0874)

### ◎2月4日(日) 探鳥会 野幌森林公園大沢口

問い合わせ 北海道野鳥愛護会 (TEL 011-251-5465)

### ◎2月3日(土) 山のトイレを考える会フォーラム 札幌教育文化会館4F

問い合わせ NPOアース・ウインド (TEL 011-764-3227)

### ◎2月18日(日) 冬の生きものウォッチング 帯広周辺

問い合わせ 帯広百年記念館 (TEL 0155-24-5352)

### ◎2月25日(日) 動物の足跡と冬芽 支笏湖青少年研修センター前

問い合わせ 北海道自然観察協議会 (TEL 011-851-5674)

# 平成13年度の研修計画

—北海道国土緑化推進委員会—

当委員会では、平成13年度に次の様な研修を計画しておりますので、林業普及指導職員、水産林務部職員（支庁林務課職員を含む）の参加をはじめ、市町村、森林組合、関係団体等にもPRをお願いいたします。

対象は	どのような研修会	研修内容は	(H12実績)
グリーンインストラクター を志す人で特定はしない	新規養成研修	13年10月上旬 苫小牧市 20名	(12・10・2~6) (真狩村) (20名)
		(右に同じ)	森林の仕組み 野生キノコ 野生植物の観察 野外観察 野外レク 野鳥観察
新規養成研修修了者	専門研修	13年10月中旬 美唄市光珠内 20名	(12・10・11~12) (左に同じ) (18名)
		(右に同じ)	野生植物の観察 野鳥観察
		経費30,000円程度	(30,000円)
		経費6,000円程度	(6,000円)
グリーンボランティアを 志す人で特定はしない	通信研修	13年9月~14年3月 10名程度 教材配布 レポート提出	(12・9~13・3) (10名) (教材配布) (レポート提出)
グリーンボランティアを 志す人で特定はしない 原則として通信研修修了者	ブロック研修	13年10月中旬 未定(東北地方) 3名程度	(12・19~21) (青森県) (3名)
		研修内容 開催県が決定	県の森林現況 耕に自生する木・藪 ボランティア活動 人工林の施業
		経費無料	(無料)
森林ボランティアの リーダーを志す人で 特定はしない	第3回グリーンカレッジ	開催時期未定 開催場所未定 1名	(12・11・2~6) 日高町 2名(全国22名)
		研修内容 緑推機構が決定	ボランティア活動とリーダー プログラムデザイン技術 フィールドワーク 市民参加の案づくり 活動の企画運営の考え方
		経費20,000円程度	20,000円

お問い合わせ先

(社)北海道国土緑化推進委員会

〒061-0004 札幌市中央区北4条西5丁目 林業会館内

電話(011)261-9022 傳(011)261-9032

## 編集後記

- 21世紀の幕開けです。例年の新年より心の改まる感じがしないでもありません。新しい時代に対応した本会の活動のありかたを考えていく必要もありそうです。多いに会員の皆さんの論議を待ちたいものです。
- 冬芽をよく観察すると、なんとはなくふくらんできました。シラカンバの枝先には春に咲く雄花が形作られていますし、他の冬芽も気のせいかな春を待っているかのようです。春を待つ気持ちは人も樹木も同じなのでしょう。
- 今年度は研修部から提供される資料を別冊で同封しています。今回は専門的な内容ですが、毎年主催する恵庭公園自然観察会とも関連しています。自然に関する知識の蓄積に役立ててください。
- 平成12年度の活動も残すところ1～3月の3ヶ月となりました。今年度の活動に悔いのないよう広報部も気持ちを引き締めています。広報部に対して忌憚のない意見や提言をお待ちしています。

北海道ボランティア・レンジャー協議会  
会報誌「エゾマツ」55号 2001.1.15  
発行責任者 川 端 功 治

